

エルサルバドル (FUNDIPRO) からの報告

オリーブジャパンはイタリアの I Sant'Innocenti (I.S.I) を中心にいくつかの国にあるカウンターパートと共に、中米の貧困に苦しむ若者への教育支援を行っています。現地カウンターパートであるFUNDIPRO（フンディプロ）の今年の活動を紹介します。



文房具プレゼントデー 2020.1.18

FUNDIPROは、みつばち保育所の子どもたち76人のために新年度にむけて文房具のプレゼントを贈りました。数週間前からスタッフは同僚や友人に協力を呼びかけました。プレゼントの協力はもとより、みつばち保育所の経験・教育活動について伝える良い機会となりました。

当日の午前中、スタッフは オフィスに集まり、一人ひとりのためにそれぞれ子どもたちの名前を書いたラッピングをしました。中身は絵描き帳、ノート、色えんぴつ、粘土、のり、鉛筆削り、消しゴム、鉛筆など、それぞれの学年に応じた文具を準備しました。中でも子どもたちが一番喜んだのは、幾何学定規とコンパスでした。このプレゼントは、すでに大学に通っているみつばち保育所出身の3人の若者にもプレゼントされました。彼らは現在経済学を勉強しており、普段は子どもたちの勉強もサポートしてくれています。

いよいよ14時30分、サンタテクラ市のテクレニャファミリア公園には、すでに子どもたちと親が待っていました。彼らはFUNDIPRO代表アンドレア・ロマーニ氏の話に耳を傾けました。彼は、すべての子どもたちがこの一年を修了したこと、とりわけ皆と一緒に時間を過ごしたことに賛辞を述べました。ロマーニ氏は、このプレゼントは、皆を応援してくれている友人の存在について話し、これからも共に学び続けることの大切を訴えました。親にも日頃の協力に対し感謝し、引き続き協力を呼びかけました。

文責 FUNDIPROスタッフ クラウディア・ソリート



医療巡回 2020. 3. 1

マルゲリータ地区にてメディカルデー（医療巡回）を実施しました。

まず、朝8時に学生や大人のボランティアスタッフと医師は、患者のために施設を整え医療機器や医薬品を用意しました。この日を迎えるにあたり、地区の住民たちにチラシを配ったり、電柱や家の壁に貼る等してできるだけ多くの方が訪問できるよう呼びかけました。前日にミリアム、ルチア、クラウディアや陽子たちは地区の家を一軒ずつ訪問して翌日の案内をしました。



医師は、アドリアーナ医師、マルセラ医師、マリソル医師、クラウディア医師、ジェニファー医師（UCA大学のボランティアスタッフのミシェルのお姉さん）が参加してくださいました。

若者は、訪問する患者の体重や身長を計ったり、それぞれのカルテを探して医師の診療の際に渡すなどのサポートに入りました。

患者は、診察を終えると別室で医師から処方された薬を受け取ります。クラウディア、ルチア、ルイス・ボニジャとミリアムが医薬品を探す担当です。診察室に入るまでの待ち時間の間、ボランティアは、衛生や歯磨き方法、栄養摂取についてわかりやすく指導しました。

今回は、デイシーデアラーナ女史も参加し、協力してくださいました。彼女は、ディヴィーナ プロヴィデンシアセンター主催、女性のための手芸講座（月曜～金曜、午後2：00～4：00、アクセサリー作り、縫製、刺繍）を呼びかけ5人の女性たちが近々受講する予定です。

今回のメディカルデーは、62名（大人31名 子ども31名）来訪しました。

ジェニファー歯科医の診療によると住民たちの口腔内もよくなっているとのこと。彼女はセンターの歯科医として活躍中です。

すべての予定が無事に終了し、スタッフは、器具やカルテ、医薬品などを事務所に片づけ、完了後、医師とボランティアと共に昼食を取り有意義な時間を過ごしました。次回は、3月28日を予定しています。

文責：ミリアム・エスポンダ、山田陽子



中米における人間の尊厳と女性の立場 その4

ジョヴァンニ・リヴァ

中米では、発育不良や病気の子どもは自分の家族を養うために働き、母親は人口抑制により2人以上の子どもを出産できない手術を受けさせられている等、目に見えない暴力が多く存在している。（前号より）

彼女たちの立場は非常に脆いものです。時には仕事を続けるために上司のセクシャルハラスメントにも耐えるしかありません。南米にはマチズム（男性主義）という問題もあります。女性も男性主義者です。もし男がいなければ女は何もできないという考え方です。夫が別の国へ行ってしまう妻は捨てられてしまったとしましょう。この妻は一人で生活することができません。別の夫が必要なのです。この乱暴な社会の中で自分や前夫の子どもを守るために男が必要です。ですから新しい男性と一緒に子どもを作る努力をします。そうすれば新しい夫との間に絆が生まれると考えるからです。しかし、新しい子どもを産めば前の子どもも守れるというような考え方は問題の解決にはなりません。二番目の夫は前夫との間の子どもを愛さず苛めたり、その夫もまた消えてしまう場合もあります。要するに女性は奴隷、まるで機械の部品のような存在になってしまいます。たくさんの例を挙げましたが、私が言いたいのは、このような問題の原因は先進国側の責任から始まるということです。開発国は何故開発途上国なのでしょう。先進国が自国の発展を目指して開発国を利用したからです。もしある先進国の大統領がある開発国の大統領にコンピューターを100台寄付したニュースがあれば、マスメディアはその場面つまり先進国側大統領がそれらを開発国の大統領に渡す場面を放送します。しかしその裏では開発国の負債問題が話されているのです。開発国の大統領がどのような契約にサインしているのかを見せてはくれません。その100台のコンピューターを貰う為に経済的に永遠に先進国の奴隷にならなくてはならない事実を見せてはくれないのです。ですから皆さん、責任があるのは経済的に勝手をしている国です。彼らはそのような国を利用してお金を中心に自国の発展だけを考えているのです。開発国に対する心的傾向を変えなければなりません。開発国の人々が自分の尊重するよう教育する必要があります、しかし食事もまともに食べられない人々にどうやって自分を尊重することができるのでしょうか。簡単そうに見えますが非常に難しいことです。開発国では自己の尊厳を尊重できる人間を教育すること、先進国ではこのような開発国の人の尊厳を尊重できる人間を教育しなければなりません。もう一つは安定した職場を確保することです。カンパはいりません、イタリア語でSolido（ソリド）とSolidarietà（ソリダリエタ）は類似語ですが、「ソリド」は安定している事、「ソリダリエタ」は連帯を意味します。本当に連帯を信じるなら安定した仕事の場を作らなければなりません。そうすれば彼らは自分たちで頑張ることができます。

最後に、私は決して開発教育の専門家ではありません。何故このような活動を始めたのかというと、人間が好きだからです。出会いからこのような活動は始まると思います。ですから、活動を考えるから出会うことを望むのは間違っていると思われれます。私たちも人間が何者であるのかを理論的に予め勉強してから人間として生まれたわけではないでしょう。人間として生まれてから徐々に人間は何者かを理解していくのではないのでしょうか。私は父親の仕事をしています、子どもが生まれる前に理論的な勉強はしていません。子どもが生まれたから、その子を守るからこそ病気になれば医者と呼ばなくてはなりませんし、子どもに必要なものは何かを考えたり勉強したりします。つまり、このような活動をするために倫理的なモチベーションが必要だと思えます。それは人間を愛さなくてはならないことです。そのような判断基準がないと、結局のところ、行動をとることができなかつたり、皆が認めてくれる自己満足の仕事にしか過ぎなくなります。人に出会ってから、その人が幸せになるために協力するのがボランティアです。例えば、私たちはエルサルバドルである少女に出会い、その出会いがきっかけになってイタリア人のある家族が現地へ向かうことになりました。その少女は17歳で既に子どもがいました。17歳で2、3人の子どもがいる娘もいます。父親はそれぞれ違う人だったりします。そのような道で生活していた女の子との出会いから、ストリートチルドレンのために何かしようと思ったわけです。私と私の友人は、専門家ではない小さなグループでしたがこの様な活動を始めました。サンサルバドルのストリートチルドレンの集団の中で、一つとても危険だといわれているグループがあります。彼らはギャングで、暴力を振ったり、麻薬を使用したりしてボランティア活動をしている他のどんな団体も彼らのことを諦めていました。ところがこの子どもたちは私たちの努力に応じて近づいてくれて、彼らとの関係は上手くいきました。このような私たちの活動を見た政府は、そのような子どもたちがいる施設（少年院）の責任を持ってくれないかとの提案をしてくれました。その施設は軽い犯罪を犯した子どもたちが拘束されている刑務所に近い感じのものです。政府はそのような提案を下さいましたが、300人もの子どもが収容されている施設のため、少人数スタッフの私たちには残念ながら引き受けることができませんでした。そのような仕事を引き受けることのできる人々がたくさんいれば良いと思います。（次号に続く）

エルサルバドルの子どもたちのための

OLIVE JAPAN

チャリティーショップ

7 | 20.sat 11:00-17:00
21.sun 10:00-15:00

カザン珈琲本店横(旧タツミ)

愛知県名古屋市昭和区台町2丁目19



TEL: 080-4306-1057 (鈴木) HP: <http://olivejapan.sakura.ne.jp/>
主催: オリーブジャパン国際開発協力協会

OLIVE JAPAN

チャリティーショップ

7/20(土)・21(日)

「物品募集中」

チャリティーショップの収益金はすべて、イタリアのI.S.Iを通して、中米の貧困に苦しむ子どもと若者の教育支援事業に充てられます。

ご家庭にある、日用品、衣類、靴、アクセサリ、バッグ、雑貨などのご提供をよろしくお願い致します。皆さまのご協力をお待ちしております。

連絡先 080-4306-1057(鈴木)

ONE WAY 国際平和文化協会 第50回文化講演会

HOMBRES NUEVOS

新しい人間

私が大飯原発を止めた理由

講師 樋口 英明 元裁判官

2014年5月21日、関西電力大飯原発3・4号機運転差し止めの判決を下す。また2015年には福井県・近畿地方9人の住民が求めた関西電力高浜原発3・4号機の再稼働差し止め請求に対し、住民側の申し立てを認める決定を出した。

2019.7.7 10:00 -

ウィルあい会議室5 (名鉄「市原駅」より徒歩5分)

開催: オリーブジャパン国際開発協力協会/New Teachers' Association/The Others
連絡先: onewayjapan2011@gmail.com 080-4306-1057(鈴木)

会員募集

オリーブジャパンの活動に賛同していただける
会員の方を随時募集しています

- ・賛助会員 (1ヶ月1口 10,000円)
- ・正会員 (1ヶ月1口 5,000円)
- ・協力会員 (1ヶ月1口 2,000円)
- ・参加会員 (1ヶ月1口 1,000円)
- ・同調会員 (1ヶ月1口 500円)

振替口座番号 00890 - 1
- 24582

会員の皆様には、会報「オリーブプレス」と
講演会、バザー等のご案内を
優先的にさせていただきます。

郵便振込用紙に必要事項と会員の種類、納入方法(月払い/年一括)をご記入の上、会費を納入ください。

ONEWAY 文化講演会

7/7(日) ウィルあいち

HOMBRES NUEVOS

新しい人間

私が大飯原発を止めた理由

講師: 樋口英明 元裁判官